

2004年8月23日

TFT-LCD用大型ガラス基板の製造能力を増強

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社(本社:東京、社長:門松正宏)は、TFT-LCD(薄膜トランジスタ方式液晶ディスプレイ)用無アルカリガラス基板の製造能力を増強することを決定しました。約140億円を投資し、高砂工場(兵庫県高砂市)に大型ガラス基板対応の製造窯を新設します。新設窯の生産能力は400万 m^2 /年で、本年10月に着工、2005年10月に量産開始の予定です。

なお、今回の投資により、当社の総生産能力は、京浜工場3窯、関西工場1窯、現在建設中の台湾2窯(1窯は本年9月稼働予定)を含め、製造窯7基で2200万 m^2 /年となります。

TFT液晶パネルの需要は、パソコン用途に加えて、テレビ用途でも需要が本格化しており、今後も台数ベースで年率25%増の見込みです。また、パネルメーカーにおいて、2005年以降、第6世代以上の大型パネルの生産が計画されていることから、ガラス基板の需給は、大型ガラス基板を中心に一層逼迫する懸念があります。

当社は、これまでもガラス基板の需要増加に合わせて製造能力アップを図ってきましたが、今後更なる拡大が見込まれる需要に対応するため、今回は、建屋建設スペース確保やインフラ活用などの観点で効率的な立地条件を備えている高砂工場内に、製造窯を新設することとしたものです。新設窯は、大型サイズを意識したガラス基板製造設備とし、パネルの大型化に対応していきます。

今後も、当社は、日本・韓国・台湾でのガラス基板の需要動向を的確に捉え積極的に事業を展開し、お客様への安定供給を図ることにより、本事業における「Global NO.1」を目指します。

以上

本件に関するお問い合わせ先:旭硝子(株)広報室長 川上 真一

(担当:斎藤 TEL:03-3218-5509、Email:info-pr@agc.co.jp)

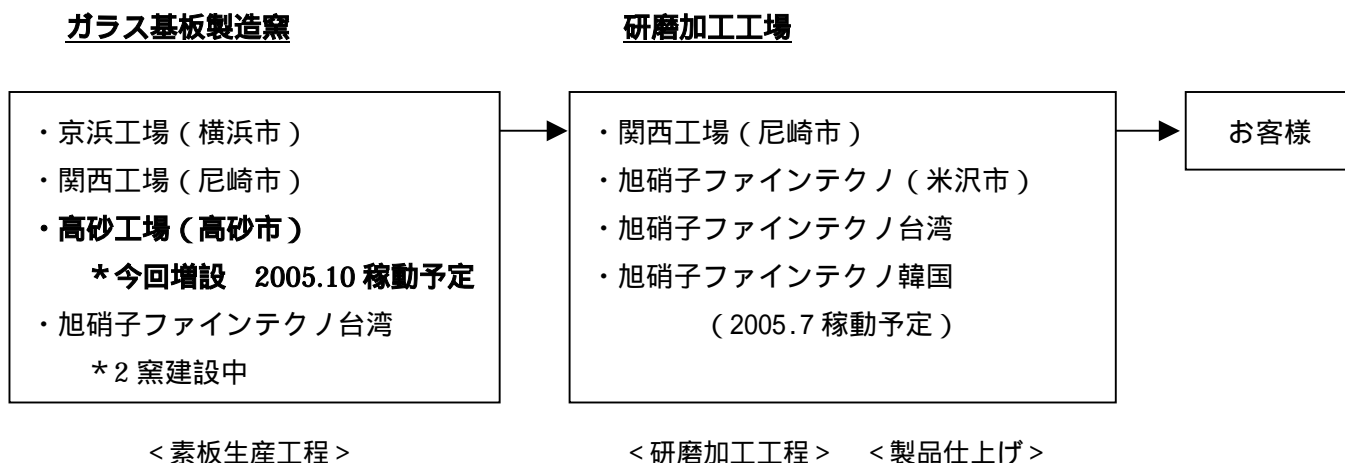
<ご参考>

1. 当社製TFT-LCD用ガラス基板の特徴について

当社は世界で唯一、TFT-LCD用ガラス基板の製造プロセスにフロート法を採用しています。1998年に上市した「AN100」の大きな特徴は、次の通りです。

- (1) 大型ガラス基板を大量に且つ安定的に供給できる。
- (2) TFT-LCD業界で主流化している第5世代(1m角以上のサイズ)以上のラインで使用される大型ガラス基板に求められる特性を十分に備えている。
 - 他社のガラス基板に比べて、高ヤング率(高剛性)であるために、顧客ライン搬送中のたわみ量が少ない
 - 反りや歪みが小さく、熱的寸法安定性にも優れている
- (3) 製造工程で有害物質である As_2O_3 (亜砒酸) Sb_2O_3 (アンチモン)を使用しない唯一のTFT-LCD用無アルカリガラス基板であり、環境問題にも十分な配慮をしている。

2. 当社のTFT-LCD用ガラス基板製造フロー



3. 高砂工場の概要

- (1) 所在地 兵庫県高砂市梅井5-6-1
- (2) 代表者 工場長 寺田賢二
- (3) 生產品目 ブラウン管用ガラスバルブ、SiC製半導体装置部材
- (4) 敷地面積 約38万 m^2 (内、約9万 m^2 を旭硝子セラミックス社に賃貸)
- (5) 従業員数 568名(2004年6月20日現在)